

浮世絵に見られる橋梁に関する

データベースの作成

信州大学工学部 学生会員 ○金子 浩司
信州大学大学院 学生会員 山本 太郎
信州大学工学部助教授 正会員 清水 茂

1. はじめに

江戸期の橋梁架設技術の進歩や橋詰広場の実体の変化を知るうえで、江戸期の橋梁の変遷についての調査は重要である。

橋梁の変遷を調べる上で、当時の橋梁に関する各情報をデータベースに管理し、必要に応じて自由に検索できると、大変便利である。そこで、我々はさきに、古地図、東京市史稿（橋梁編）等の参考資料より、江戸市内の橋に関する情報を抽出してデータベースを作成した¹⁾。

ところで橋梁の変遷を調べる時、その時代時代の様子を視覚的に比較することは有効である。そこで、本稿では、文献¹⁾に引き続き、橋の描かれた浮世絵²⁾より、江戸期の橋に関する情報を抽出してデータベース化をはかることにした。これは、当時の様子が克明に描かれている浮世絵に注目し、これをデータベースで管理して研究に用いようとするものである。

このデータベースは、橋の周辺状況、構造、立地条件、浮世絵に関する情報等について、データの整理、構築を行ったものである。また、あわせて、主要な検索が容易に行えるような検索システムを作成した。このシステムは浮世絵に描かれている橋梁の中で、ある特定の条件に該当するデータのみを検索するものであり、このシステムを使うことによって江戸期の橋梁の変遷について様々な考察とともに調査を有効に行う事ができる。

2. データベースの構造

情報の抽出は、表-1に掲げた事項を中心に行った。

これらのデータを用いて「浮世絵」、「所在」の内容ごとに別個に2種類のデータベースを作成した。このようにデータベースを分割することによって、例えば異なる複数の絵で描かれている橋の場所が同一である場合のように、同一の橋に関する情報が複数出現するとき、共通のデータの重複を防ぐことができる。また、同じ各橋ごとに固有の標識となるキーをつけておき、複数のデータベースにまたがったデータが容易に取り出せるものとした。

表-1

3. 検索システム

表-2は、このデータベースの検索内容の一例である。

本システムでは、表-2の検索内容について、それぞれ単独での検索、組み合わせでの検索を可能にした。

検索を行う際、このシステムはまず該当するデータの数を表示し、その後、必要に応じてデータの内容を

データの種類	抽出したデータの内容
浮世絵に関して	年代、浮世絵名、作者名、橋の主体性、橋の周辺状況 等
橋の所在に関して	橋の名前、所在、河川名、河川の規模

